

すこやかに生きるために

— 在宅医療・看護・介護 —

第Ⅰ部 講演

『在宅ですこやかに過ごすために』等

講師 中 津 守 人 内科医師

講師 井 上 栄 子 訪問看護師

講師 木 村 啓 介 理学療法士

第Ⅱ部 講演

写真・録画・録音等禁止

『家族って何だろう ～介護・休みなしの20年』

講師 タレント 荒 木 由 美 子

と き 平成24年7月7日(土)

開場 午後1時 開演 午後1時30分～4時

ところ 観音寺市民会館大ホール
(入場無料)

主 催／社団法人 三豊・観音寺市医師会

後 援／香川県医師会・観音寺市・三豊市

ごあいさつ

健康教育講演会は、平成元年に始まり今年で24回目を迎えることが出来ました。毎回、多くの市民の皆様にご参加頂けたことと、観音寺市、三豊市、その他関係諸機関の御後援により、このように長期間続けることが出来たものと感謝しております。

今年の講演会は、「すこやかに生きるために」をメインテーマに、「在宅医療・看護・介護」をサブテーマに開催したいと思います。

多くの患者様は、病状が安定すると、『在宅』で過ごされることを希望されます。しかし、現実には、病院・施設などで過ごされたり、亡くられる方も多いのです。

第Ⅰ部では、三豊総合病院 内科・地域医療部 中津守人 部長、香川井下病院 訪問看護ステーション 井上栄子 所長、三豊総合病院 リハビリテーション科 木村啓介 技師長に、医学的な講演をお願いしております。第Ⅱ部では、文化的な講演として、タレントの荒木由美子さんをお願いしております。

皆様お誘い合わせでの上、ご来場頂けますよう、心よりお待ちしております。

社団法人 三豊・観音寺市医師会

プログラム

開会挨拶（午後1時30分） 池田博行 （三豊・観音寺市医師会 会長）

来賓挨拶

第Ⅰ部 講演（午後1時40分～2時40分）

「在宅ですこやかに過ごすために」～医師の立場から～

講師 中津守人 先生（三豊総合病院 内科医師）

「我が家で暮らすために」～訪問看護師としてののかかわり～

講師 井上栄子 先生（香川井下病院 訪問看護師）

「訪問リハビリテーションについて」～理学療法士としてののかかわり～

講師 木村啓介 先生（三豊総合病院 理学療法士）

司会 河田健介 （三豊・観音寺市医師会 副会長）

休憩（午後2時40分～3時）

※昨年のアンケートのまとめとお願い（約5分間）

第Ⅱ部 講演（午後3時～3時50分）

「家族って何だろう」～介護・休みなしの20年～

講師 荒木由美子 氏（タレント）

司会 池田博行 （三豊・観音寺市医師会 会長）

閉会謝辞（午後3時50分） 小野好彦 （三豊・観音寺市医師会 副会長）

閉会（午後4時）

進行 新鞍誠 （三豊・観音寺市医師会 理事）

要約筆記 NPO法人香川県要約筆記サークルゆうあい

講師 荒木 由美子 タレント 紹介



1976年「第1回ホリプロ・タレントスカウトキャラバン」にて「審査員特別賞」を受賞しデビュー。

歌手、女優として活躍。

1983年に歌手の湯原昌幸と結婚し芸能界を引退。

その後、結婚2週間後に病に倒れた義母を20年に渡って介護し、2004年に自身の体験をもとに綴った「覚悟の介護」を出版。

これを機に芸能界へ復帰。

現在は、テレビ出演や全国での講演会活動を行っている。

また夫：湯原昌幸との共著「夫婦力22章」を2009年11月22日“いい夫婦の日”に発売し、夫婦でテレビ・イベント出演など精力的に活動している。

講師 中津 守人 内科医師 紹介

1988/03	自治医科大学卒業
1988/06～1990/05	香川県立中央病院
1990/06～1992/05	塩江町立国保塩江病院
1992/06～1995/05	琴南町立造田診療所・美合診療所
1995/06～	三豊総合病院 内科医員
2007/04～	三豊総合病院 内科・地域医療部部长

講師 井上 栄子 訪問看護師 紹介

1980/04～1987/03	医療法人明世社 白井病院 勤務
1985/03	国立療養所香川小児病院 付属看護学校卒業
1987/04～1991/09	援護施設 高瀬荘 勤務
1993/04～1999/10	高瀬町役場 非常勤看護師（保健福祉業務・訪問指導員・保育所）
1999/11～1999/12	医療法人社団豊南会 香川井下病院 勤務
2000/01～	香川井下病院 訪問看護ステーション 勤務 （旧名称 訪問看護ステーション みとよ）
2002/4	香川井下病院 訪問看護ステーション 所長

講師 木村 啓介 理学療法士 紹介

1985/03	国立善通寺病院付属リハビリテーション学院 卒業
1985/04	三豊総合病院 リハビリテーション科 勤務
1990/04	三豊総合病院 リハビリテーション科 主任
2001/04	三豊総合病院 リハビリテーション科 副技師長
2002/04	三豊総合病院 リハビリテーション科 技師長

『在宅ですこやかに過ごすために』 ～医師の立場から～

内科医師 中 津 守 人

病気や障害を抱えても、住み慣れた家庭で、身近な人に囲まれて、自分らしく生きたいものです。しかし、入院での治療が終わり、いざ自宅へ帰るとなると、「家族だけで看られるのか」、「十分な医療や看護が受けられるのか」、「急に病状が悪化したら、どうしたらよいのか」など、様々な不安があります。在宅であっても、障害の程度に応じて、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、歯科医や医師の診察を受けることができます。また、施設でのデイサービス、デイケア、ショートステイなどを利用することもできます。これらのサービスを上手に利用することで、重度の介護が必要な状態であっても、在宅で過ごされている方がいらっしゃいます。癌の末期の方でも、最後まで自宅で、ご家族に見守られながら過ごされる方もいらっしゃいます。自宅へ帰ることで、表情が明るくなったり、食欲が増したり、問題行動が減ったりする方もいらっしゃる、在宅には不思議な力があると感じることがしばしばあります。

住み慣れた自宅で過ごしたい、過ごさせてあげたい、その気持ちを大切にしてください。そして、在宅での療養へ一歩踏み出す勇気を持っていただけたらと思います。

『我が家で暮らすために』 ～訪問看護師としてのかかわり～

訪問看護師 井 上 栄 子

「長年住み慣れた地域や我が家で、家族と共に過ごしたい。」

これは、健康な人以上に、看護や介護が必要な方々にとっては、切実な願いです。しかし、病状によっては、どうしても病院での治療を必要とし入院をしなければいけない状況があります。また、家庭の事情により、自宅での療養が困難で施設での生活を選択せざるを得ない方も多くいます。

しかし、住み慣れた我が家を離れるというのは、とても悲しい事だと思います。そんな方々が少しでも自宅で長く暮らせるように、私たち訪問看護師は、日々、自宅を訪問し、在宅療養の援助をさせていただいています。

実際、訪問看護師として、どう関わらせてもらっているのか、また、それにより感じた事や思う事など、お話したいと思います。

少しでも、訪問看護を理解いただけたら幸いです。

『訪問リハビリテーションについて』 ～理学療法士としてのかかわり～

理学療法士 木 村 啓 介

訪問リハビリテーションでは、通院等が困難な方のお宅に理学療法士・作業療法士等が訪問し、機能回復や維持のため、歩行訓練のほか、更衣、トイレ動作、食事動作などの日常生活に直結した訓練を実施しています。

また主治医や看護師等と連携し、体調の管理を行い、ご家庭で安心して生活が送れるように支援しています。

さらに、手すりの位置や段差の解消等住宅改修や福祉用具利用のアドバイスや介護方法の相談にも応じています。

なお、訪問リハビリテーションには、要介護認定されたご本人及びご家族の依頼により行う介護保険指定訪問リハビリテーションと、医療保険対応による訪問リハビリテーションがあります。講演ではより具体的な例をあげてお話をしたいと思っております。